

大会特集号



府職の友

FUSYOKU NO TOMO

2072号 2018年1月24日

発行所／大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人／有田 洋明 編集人／小松 康則
（一部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

「なぜかホツとした一日に」 「新しい風を感じた」

府職労 第97回 定期大会



みんなので労働組合の大切さを実感

12月14日「No Union No Life みんなが笑顔になるために」をメインスローガンに、府職労第97回定期大会がマイドームおおさかで開催されました。
大会には青年や女性も多く参加し、2018年度運動方針案をはじめ、すべての議案が全会一致で可決されました。



青年・女性の活躍目立ち、元気な大会に
大会では2人の議長と大会運営委員長も女性が選出されました。26人の代議員から発言がありました。そのうち9人が女性、8人が若手・青年でした。女性や青年の活躍が目立った前向きで明るい元気な大会となりました。

やりがいをもって仕事のできる職場を
大会会場には、喫茶・休憩スペースやおかわり自由のコーヒー、JALやエミレックス航空の争議支援物販コーナーもあり、参加者は休憩時間も楽しく過ごしました。

り、住民のために懸命に働く職員と労働組合の大切な役割を確認することができました。府職労は引き続き、やりがいをもって仕事のできる職場をめざします。また、そのためには、憲法改悪を許さず、人間らしく働き暮らせる社会の実現をめざします。

女性の参加率47%
20～30歳代の参加率22%

府職労はいいなあ実感
初めて参加して感動した

大会参加者の感想

★職場で毎日時間に追われている中、今日はなぜかホツとした一日となりました。ありがとうございます。
★日々のことに忙殺される毎日ですが、ここであらためて組合の大切さを感じます。
★いつも思いますが、府職労はさまざまな仕事をし



★初参加です。いろんな職場からいろんな報告がされている中、今日はなぜかホツとした一日となりました。ありがとうございます。
★若い方の発言も多く、前向きで明るい大会だったと思います。
★やっぱり府職労の仲間はいいなあと実感しました。
★初参加です。いろんな職場からいろんな報告がされている中、今日はなぜかホツとした一日となりました。ありがとうございます。



西垣代議員
（女性部/保健所支部）

子育てしながら安心して働き続けるために

代議員の発言

女性部は6月に定期大会を開催、要求書を決定し、当局へ提出している。主要要求は、育児休業制度の充実、大阪府下で大変な中、がんばって働いておられる仲間がいることを知れました。やはり「知は力」だと思いました。みんなのがんばり、現状のおかしさ、本来の姿などを伝えることができ、一歩を踏み出すことにつながると感じました。
5月には「パパ・ママ相談会」も開催した。育休中や育児復帰の方に声をかけて、大阪府下で大変な中、がんばって働いておられる仲間がいることを知れました。やはり「知は力」だと思いました。みんなのがんばり、現状のおかしさ、本来の姿などを伝えることができ、一歩を踏み出すことにつながると感じました。



★初参加です。いろんな職場からいろんな報告がされている中、今日はなぜかホツとした一日となりました。ありがとうございます。
★若い方の発言も多く、前向きで明るい大会だったと思います。
★やっぱり府職労の仲間はいいなあと実感しました。
★初参加です。いろんな職場からいろんな報告がされている中、今日はなぜかホツとした一日となりました。ありがとうございます。
★若い方の発言も多く、前向きで明るい大会だったと思います。
★やっぱり府職労の仲間はいいなあと実感しました。
★初参加です。いろんな職場からいろんな報告がされている中、今日はなぜかホツとした一日となりました。ありがとうございます。

遊歩道

「働き方改革」が進められているが、看護業務の人員不足や長時間労働は解消されないままとなっている。すべての処置が電子カルテにかけられ、常にパソコンをのりながらの業務になっている。▼保助看護法（保健師助産師看護師法）は、看護業務を「療養上の世話または診療の補助」と規定している。「診療の補助」とは、医師の補助ではなく、診療を受ける患者の補助と考えるべきだ。▼看護師が大事にしたい「療養上の世話」について、看護学生の川島みどり先生は「療養上の世話とは生活援助だ。人間が人間らしく生活していくための営みに不具合や不自由が生じた時に、手助けをすること」と話している。▼「生活援助」といったケアは、患者の免疫機能を高め、安楽をもたらすことに確実につながる。しかし、実際はどうか。少しの変化も見逃さないよう観察し、急変時に迅速に対応できるようにと毎日張り詰めている。寄り添った看護と言われながら、現場は人員不足と過密業務の中、一人ひとりの十分な対応ができたか消化不良な気持ちで1日を終える。充実したケアが行われるような「働き方改革」こそ必要だ。（も）